

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	利用者1人1人の生活が、個人が過去に歩いてきた生活にできるだけ近づける様に尊重・尊厳を持って心のケアがしたい。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	利用者の方々に対し、今日1日が楽しかったと思って頂けるような関わり方に取り組んでいる。特に非言動的コミュニケーションに注意を払っている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議の町内会長、民生委員の人達と、また家族の方にはレクリエーションを通し「楽しく愉快地に朗らかに」一日を過ごしていることを、話し合っております。		月1回、町内会にホーム便りを発行し、ホーム内での生活を紹介することにより、地域の人達に理解して頂けるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ホームはバス停に近く、近所の方がバスを利用するが多い。その為、何かと会う機会が多くホーム内でのレク参加を呼びかけている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内でのお祭り、温泉旅行、盆踊り、雪あかり等の行事に参加している。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の人がグループホームはどんな所か見学したいがどうか、入居費はいくらなのかと電話があったり見学が時々ある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>家族への参加が少ない為、案内状をもっと出したい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>わからない事や方向にずれについては、積極的に指導を受けたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>地域権利擁護事業の内容について、今後学んでいきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>入居時においては、重要事項書を中心に説明、契約においても確認しながら行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃より不満や意見があればいつでも話しかけてほしいと常に呼びかけ、家族が面会時本人を交え話し合える機会をもうけている。 1ヶ月1度、利用者様と話し合いの場をもうけている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	1ヶ月1度の家族面会時、健康状態、金銭管理、職員の異動について話し合っている。		以前は必要に応じて報告していたが、今後ホーム便りと共に定期的に行いたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時、その時に応じて意見を聞き、ホームでの生活をどのようにされているのかを説明し、家族の意見が反映できるよう努めています。		定期的に意見を聞くようにしたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リスクマネジメントを設け「なぜそのような介護サービスになったのか」を、みんなで話し合う機会を設けている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	1日の時間帯において必要に応じ、職員の配置について柔軟に取り組んでいる。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職においては常々その理由を職員と共に話し合い、必要最小限にとどめるためには、どうすれば良いかを話し合っています。 利用者様にはダメージを防ぐために離職することを話しておりません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>グループホーム協議会の研修には、必ず職員は参加している。また計画作成担当者の研修育成を行っている。</p>	<p>今後、研修・資格があれば積極的に参加させたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>職員を同業者のホームに研修に行ってもらい、介護サービスの向上に役立っている。</p>	<p>今年からは、1各所のホームだけでなく他のホームにも研修に行ってもらい、良いところを学んできて質の向上に役立てた。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>指導する時、職員にストレスを感じさせないよう、命令口調や怒ったような表情にならないよう、非言動的コミュニケーションに気をつけている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>個々の職員が努力している実績を感謝し、お互い信頼感を持てるよう努めている。その場で注意するのではなくリスクマネジメントを作成し、個々の問題をみんなで話し合っている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>毎日必ず個々に全体に挨拶を行い、昨夜よく眠れたか、心配ごとはないか、体の調子はどうか、などを聞いている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>1ヶ月に1回、面会に来て頂けるよう話しかけ、面会時に家族の考え、生活への希望を聞く機会を作り、話し合いの場を作っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者は身体的疾患を持っている方が多く、入居以前は個々に受診していたのを総合病院に変更したり、すぐに入居するのではなく、体験入居及び、見学などをして頂き説明を行っている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者家族の方に充分グループホームの特色、他の利用者さんの性格を知って頂くように努め、ホームでの生活をどのようにしたいかを聞いたり入居前の生活、職業、出身地、自然にホームの生活にとけこんでいけるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	その場、その場の本人の状態を把握し、何を必要としているのかを一方的に解釈しようとするのではなく、その時に一番良い方法を共に話し合う関係を作っていくよう努めている。		
28 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	現在の家族構成は核家族がほとんどである。入居されている妻や夫は高齢化と共に病気や足腰が不自由な方が多い。そのため、必要な書類等は家に取りに行く場合を余儀なくなり、その際に病気に対する相談、子供に対する相談をされる場合が多い。また本人に対する将来への方向付けについても話し合っている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居費を銀行振り込みとせず、1ヶ月に1度確実に来て頂き、面会・外出等をして頂いております。また、ホームでの行事等には家族の参加を呼びかけています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人・友人が面会に来られた時等、ホームでの生活を利用者と共に話し合い、いつも貴方のことが話題になっていることを話題とし、機械があればいつでも面会できることを告げたり、訪ねたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事前、食事後できる限り職員が利用者の方に話しかけ、また利用者同士が話をしやすい雰囲気作りに努めている。 月～金に必ずレクリエーションを行い、利用者が孤立しないようにしております。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の施設・病院に移転された利用者さんの面会をしたり、年賀状のやりとり、電話での相談をしております。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的に利用者1人1人のホームでの生活希望は聞いていませんが、看護師が健康管理をする時、ヘルパーが関わりを持つ時、管理者が関わりを持つ時に必ず聞くようにしております。		利用者全員での話し合いの場を時々設けておりますが、今後定期的に行い、個別的に話し合いの場を設ける必要があると思います。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ホームでの生活を型にはめず、自由な生活ができるよう配慮しております。 利用者1人1人の生活歴を把握し、その人に合った関わり方をしております。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者の方には1人で部屋にいる方が気楽だと言われる方がおられますが、孤立しないよう職員が部屋で話しかける時間を多く持ったり心身状態を聞いたり、他利用者との関わりを把握しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎朝、昨日からの1人1人の利用者の申し送りと共に必要なケアカンファレンスを行い、介護計画を作成しております。 計画についての内容は本人及び家族に報告し、希望事項は付け足し、実施しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	短期目標を作成しモニタリングを行うことにより、次の短期目標を作成し、その短期目標の積み重ねが長期目標達成に近付けるように努めている。 有効期間内での計画を考慮していなかった。		介護保険の有効期間内で達成できるような長期目標を利用者・家族と共に作成したい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケア・関わり・看護・処置を通じ、身体的・精神的な内容を個別に記録し、介護計画を中心に実施、目的意識を持って接しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	1つのことを一方の方法だけで解決せず、本人及び家族の意見を柔軟に取り入れ、職員全員がその時々々に臨機応変に対応できるよう教育に努めております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	2ヶ所の町内会の協力を得てホーム便りを発行させて頂き、ホームでの生活を紹介したり、カラオケ大会及び、ひな祭り等に参加を呼びかけております。 消防による消防訓練や、小学校の文化祭の見学をしております。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	よりよいサービスを提供するため、他のケアマネジャーに教えをもらったり、経営者と指導を受けたり、認知症の人を支える家族の会の会員となりアドバイスを受けております。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	時々支援センターにアドバイス等を受けたり、最近の情報を受けたりしております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者の高齢化に伴い、より高度な専門医が必要になる場合が多い。時として総合的に治療が必要とされる時、本人・家族と相談し総合病院に代わる方法を取っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の症状に対し、いかに関心が強いかが、利用者・家族・看護師の言葉に耳を傾けて頂ける専門医に受診している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	3人の看護師を常勤とし、常に連携を取りながら日常の健康管理及び受診を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時できる限り面会をし、その都度、看護師より情報を得よう努め、家族に状況を説明している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者が入居を希望された時、終末期、病院に移るか、ホームで終末期を迎えるか、本人・家族とよく話し合い、入居して頂いております。また症状によっては早期に話し合いの場を設けております。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化が予測される場合、治療を必要とする場合、ホームでの医療行為は出来ない。かかりつけ医がホームでの生活を容認された時(老衰等)、ホームでの対応をいかにするかを検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	3年間に2例、別のグループホームに移されましたが、残念ながら1例は他の利用者とのソリが合わず移られ、1例は本人の病気のために良いと思った環境が悪く取られ、移られました。 残念ながら十分な話し合いの場を持ってませんでした。		ホームは看護の場、医療の場でないことを本人・家族とよく話し合い、理解して頂けるように努めたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	「介護サービスとは何か」の問いに認識されず時として禁句的な言葉を発することが見られるため、内部研修を通じ教育しております。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者が希望された時、ホームで出来ることと出来ないことを、その利用者の能力に合わせ説明・理解を得ている。 それでも理解されない場合、家族と共に話し合っている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り利用者全員(9名)で話し合いの場を設け、ホームでの生活希望を聞いたり、1人1人の利用者の生活パターンに合わせた行動を援助しております。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	外出する時、病院に行く時、身だしなみに気を付け、理容・美容は本人が希望される店に行けるように努めております。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	時々、みなさんの意見を聞き、少しでも希望に添えるような食事を出せるように努めております。 また食事の準備や片付けもその人に合わせて一緒に行っております。		1ヶ月に1度、定期的にみなさんの意見を聞いていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒は正月・希望者のみ(常に希望するからと言って出してはいません)。中には他利用者が飲むことを嫌がる方もおられます。他の嗜好品においては希望に添えるように話し合いで決めております。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄においては日夜失禁の多いのが現実です。1人1人の排泄パターン、その方の動き等をチェックしながら失敗を防ぐ努力をしております。利用者の方にも協力を呼びかけております。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一応、曜日を決めてありますが、必要・希望時はその限りではありません。特に病院に受診する時等は、タイミングをずらしております。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間の時には自室に戻って頂いておりますが、自室での生活は自由です。本を読んだり、ラジオを聞いたり、テレビ等を見ておられる方もおられます。朝、食事に間に合うよう入眠時間を話し合いで決めております。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	1人1人の生活歴を把握し、いかにして楽しい入居生活ができるか常に関わりが持てる話ができる環境作りに努めております。朝の更衣時、洗面時、食事の前後、テレビを見ている時、新聞を読んでいる時、何気なしに声をかけております。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	開設当初は希望者はお金を所持して頂きましたが、保管場所を忘れ職員のせいにされたり、家族が持っていかれたのに、盗まれたと言われ、なかなか理解されませんでした。現在はホーム管理とし、外出、外泊、買物時に家族の理解のもと所持して頂き、本人の希望に応えております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は本人の希望にて庭散歩やそれ以上希望される方は町内散歩をして頂けるように配慮している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望者をつのりデパートに出かけたり、スーパーに買物に行く機会を作っている。面会時に家族の方に利用者の方と食事に行ったり買物に行ってもらえるように話しかけている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ホームから家族に電話連絡が必要な時、またはホームに来られた時等、本人と話して頂けるように話しかけております。手紙においても宛名を書いたり、内容を相談された時、共に考える機会を作っています。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は特に決めておらず、家族・友人・知人等の常識に任せているのが現状で、現在まで特にトラブルはありません。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組むため、積極的に講習会に参加し、内部研修を通じ、職員に伝達しております。また、管理者は日々些細なことであっても身体拘束に通じる行為がなされていないかチェックしております。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室においては鍵を掛けない。利用者が外出をされそうな服装をされ居室より出てこられたら見守りをし、玄関より出て行かれた時は理由を聞きながら一緒に付いて行く。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者とは居室・食堂・洗面所・廊下で話しかけ、身体的・精神的に心のケアが出来るように配慮している。 特に非言語コミュニケーションには日頃より配慮するよう指導している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	タバコ・ライターは特に注意物品として保管・管理が必要だと思っておりますが、火災の危険性を理解して頂けるよう常に話しかけている。理解・納得してもらうには1年間の月日が必要でした。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止においては細心の注意を必要とし、転倒しそうな利用者には常に行動に注意している。窒息には食事の時の見守り、誤薬には2人で確認、人員の把握、特に厨房での火の始末等、事故防止に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の急変に対する応急処置、蘇生術等を定期的に内部研修として行っている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難及び救出においては毎年3月・6月・9月・12月にホーム内の火災訓練と共に行っている。町内の協力については運営推進会議を通じお願いしている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	最低、1ヶ月に1度の面会時、利用者の生活、病気等について家族と話しをして利用者の生活に対する方針を確認しております。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化については早期発見に努め、専門医院・病院に受診するよう努めており、医師には速やかに情報を提供している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	朝の申し送り時、新しい薬が処方された時、全職員に伝達されるまで目的・副作用について確認している。また、以前より服用されている薬についても症状の変化に気付いた場合、看護師に連絡するよう確認している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	高齢者は何かと便秘になりやすく、3日排便がない場合、便秘とみなし医師の指示に従い、看護師が対応している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝の食前・食後、必ず歯を磨いたり、義歯の清潔を保っている。 昼・夕食後、就寝前に歯磨きを行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者全員の水分量をチェックし、1日の量としてその人に応じた飲水量を確保している。 栄養においては業者が1日1600calを計算し、栄養バランスは栄養士が行っている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症においては細心の注意を払い、勤務に来る職員には必ず、うがいと手洗いをするよう指導している。居室の温度は22℃、湿度は50%になるよう調整している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材には必ず賞味期限を記入し、残飯は残さないようにしている。</p> <p>台所の衛生管理においては、台所キッチンハイター0.02%を使用し、台所を拭いている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関は階段とスロープを設置している。</p> <p>建物周囲には庭を設け、花や野菜を植えている。</p> <p>時々、近隣の人等が顔を出し、花の話や、野菜作りの話しをして談笑している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関ホール、廊下、居間には絵画を飾り、光は直接目に入らないような鈍い蛍光灯を使用している。居間は南東に設置しており、いつでも明るい日差しが入る。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間に長椅子があり、テレビに近いので利用している人は多い。</p> <p>また、食堂の椅子は1人用のソファのような椅子であり、キャスターが付いているので自由に動かすことができる。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には家族の写真・仏壇・本人が家で飾っていたもの等があり、本人が居心地良く生活している感じが見られる。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>居室及び、居間には空調設備を設置している。各居室には温度計・湿度計を設置し、温度調節のためチェック表を設け、窓の開閉を行い換気に努めている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内は段差はなく、階段は色別になっている。転倒しそうな利用者の居室には床にマットを使用し、骨折防止に配慮している。</p> <p>日々、足腰が弱くならないよう廊下歩行や柔軟体操、手すりを利用した屈伸体操を行っている。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>家庭生活の延長になるように利用者1人1人の生活史を把握し、出来る限り規則を作らず、自分の思いで生活ができるよう配慮している(夜間電気をつけていないと眠れない等)</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の周囲には散歩コースを設け、車イス等も使用できるようになっている。</p> <p>自然の草花も楽しむことが出来、居間の窓からは花壇断が見られ、小鳥のエサ箱を用意し、自然を楽しんで頂いている。</p> <p>居間には緑を楽しむための鉢や金魚鉢プランターを設置している。</p>		

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p> <input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない </p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p> <input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くない </p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

・日々の生活の中で単調ながらも「楽しく愉快地に朗らかに」過ごすことが出来ないか、また安全・安心に心掛け、心のケアが出来るよう取り組んでいきたいと思っている。